

研究課題名	持続可能な観光産業を支える水災害適応策の共創開発		貢献する 主な SDGs	  
研究代表者 (所属機関・役職)	手計 太一 (中央大学 理工学術院 教授)		研究期間	5 年間
相手国	タイ王国	主要相手国 研究機関	カセサート大学	
研究課題の概要				
本研究では、タイの主要観光地（チェンマイ、アユタヤ、バンコク、プーケット）を対象に、(1) マルチ水害リスク評価、(2) 社会受容性・経済効果の分析、(3) 適応策の設計・開発を統合した国際共同研究を実施する。気候変動により激甚化する水災害に対し、観光産業と地域社会が共創する持続可能な統合的レジリエンス強化を目指す。観測データが限られた地域でも適用可能な洪水ハザードマップ作成ガイドラインを整備し、観光業従事者・地域住民の行動・意識データを蓄積する。さらに、統合災害情報アプリ（HAZARD-T）や観光危機管理計画（水害版）策定ガイドライン・研修マニュアルを開発し、観光危機マネジメント研修センター（TCMTC）を設立する。研究成果はタイ政府や日本政府の政策立案、産業界の防災力向上への活用を目指すとともに、アジア太平洋地域への水平展開を視野に入れ、「観光×防災×持続可能性」を融合した実践的モデルとして国際的に発信していく。				